

第②章

子どもへの しつけ・教育観



ここではしつけに関する考え方5項目について、それぞれ相対する選択肢A・Bを設定し、自分の考えに近いほうに○をつけてもらった。

親の意向、世間一般の常識を重視 (図2-1)

全体の数値を高い順にみると、「基本的な生活習慣をつけるためには、親からの多少の押しつけは止むをえない」82.5%、「世間一般の常識にはずれないようなしつけをしたい」79.3%、「自分が育てられた実家の親のしつけの方法を思い出して、参考にしている」74.2%、「しつけは親や家庭の役割なので、親が責任をもってしなければいけない」57.4%、「子どものしつけについてはあまり悩んだことがない」54.7%となった。しつけの責任の所在に関する項目は意見が分かれており、「しつけは親や家庭の役割なので、親が責任をもってしなければいけない」57.4%に対して「しつけは親だけの責任ではない。子どもの性格や社会、園や学校、友だち、祖父祖母の影響も大きい」42.6%という結果で、親が責任をもつべきと考える人のほうが15%ほど多いが、親だけの責任ではないと考える人も4割程度存在していた。また、「子どもが反抗的で、どのようにしつけてよいのか迷うことが多い」45.3%に対して、「子どものしつけについてはあまり悩んだことがない」54.7%という結果が出ており、しつけについて悩んでいない人のほうが約1割ほど多いが、4割強はしつけに迷いを感じていた。

男子の親のほうがややしつけに迷いを感している

男女別にしつけに対する考え方をみると、男女差があるのはしつけに対する迷いについ

てで、「子どもが反抗的で、どのようにしつけてよいのか迷うことが多い」は男子47.9%、女子42.5%と、5.4%の差があった。同じような傾向が本調査中の「子育てを中心にした悩みや気かりの中で現在最も気にかかっていること」の「しつけのしかた」にもみられ、男子56.5%、女子43.5%と男子のほうが13.0%高かった。男子の母親のほうが、しつけに対する迷いをもつ人が多いといえる。

学年が上がるにつれて、しつけに関する家庭の責任意識が高くなる

学年が上がると数値が上がるのが、「しつけは親や家庭の役割なので、親が責任をもってしなければいけない」の項目で年少児51.3%から小2生60.3%と9.0%高くなっている。逆に学年が上がると、数値が下がるのは「子どもが反抗的で、どのようにしつけてよいのか迷うことが多い」で、年少児50.2%に対して、小2生44.4%と5.8%減っていた。

第2子以降の親のほうが、しつけをする上で親の意向を重視 (図2-2)

出生順位別にみてみよう。第2子以降の母親のほうが数値が高い項目をあげると、「基本的な生活習慣をつけるためには、親からの多少の押しつけも止むをえない」(第1子79.2%<第2子以降86.4%、7.2%差)、「世間一般の常識にはずれないようなしつけをしたい」(第1子77.3%<第2子以降81.8%、4.5%差)、「しつけは親や家庭の役割なので、親が責任をもってしなければいけない」(第1子55.9%<第2子以降59.1%、3.2%差)の3項目だった。第2子以降の親のほうが、しつけをする上で親の意向を重視し、世間一般の常識にあったしつけを家庭できちんとすべきだと考えていた。逆に、第1子の親はしつ

けをする上で子どもの個性やペースを重視し、周囲の人の影響を受けながら子どもはしつけられていくと考えていた。

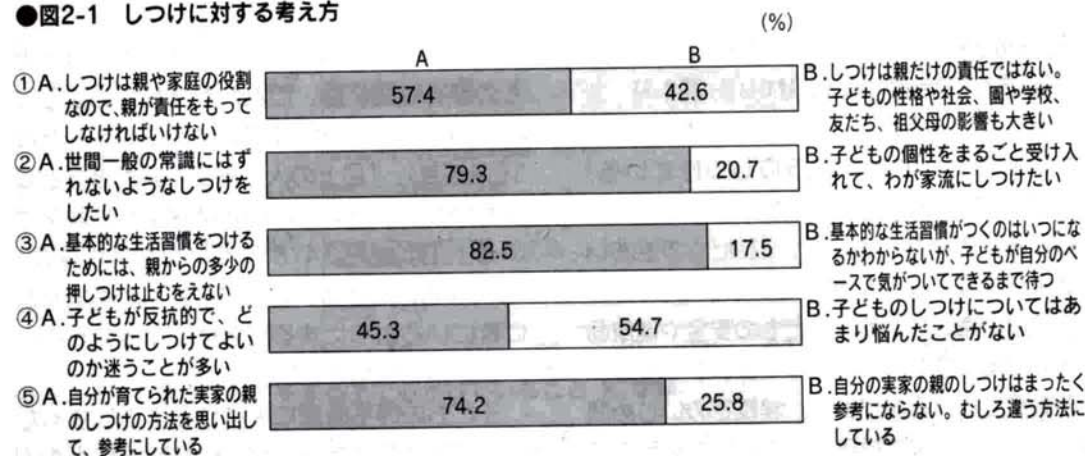
専業主婦は、しつけは家庭の責任と考える傾向が強い

母親の就業状況別にみると、「しつけは親や家庭の責任」と回答した割合は、専業主婦のほうが常勤者より7.6%高く、逆に「親だけの責任ではない」と回答した割合は、常勤者のほうが専業主婦より7.4%高い。常勤者

の親は、必然的に母親以外の人に子どもの世話やしつけをまかせる機会が多くなるという実態がこれらの数値の背景にあるようだ。

また、「しつけに迷うことが多い」のは専業主婦のほうが常勤者より5.1%高く、逆に「あまり悩まない」のは常勤者のほうが5.1%高い。全般的にみて、専業主婦のほうがパートタイマーや常勤者に比べて、しつけに関する親や家庭の役割責任意識が強く、それだけ親の意志を通す傾向が強いことが表れていた。

●図2-1 しつけに対する考え方



●図2-2 しつけに対する考え方×出生順位

